

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 紀北支援学校 校長名： 児玉 修造

目指す学校像・育てたい生徒像

一人一人の障害・発達・生活の実態を正しくとらえるとともに、教育的ニーズを把握し、すべての子供のもつ発達の可能性を最大限に伸ばし、子供を中心とし、将来を見据えた教育を創造する学校。障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、「やさしく 明るく たくましく」より豊かに生きていこうとする子供。

学校評価の公表方法

職員には、職員会議にて、職員及び保護者の分析を共有する。保護者には、役員会の中で保護者の結果についての分析を公表し、改善策に関する意見等をいただく。学校運営協議会において、改善点等のご意見をいただく。ホームページにおいて公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（1月31日現在）						
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策			
1	個に応じた分かりやすい授業の推進（授業づくり）に取り組む。	授業づくり・授業改善を軸にカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。各学部四つの柱の観点と学習内容表の活用を進めながら授業改善にも取り組む。 【C】	・学習内容表や単元計画表を使った授業づくりの評価や、見直しを図る。	・分掌部長等のリーダーシップや外部講師の指導のもと、職員全員の力量向上を図る。	B	・拡大教育課程検討委員会を3回開催し、目標や評価の書き方など個別の指導計画様式の見直しを行い、新年度から活用を開始していく。	・授業研修を展開する中で、学習内容表や単元計画表を使った授業づくりを児童生徒の実態把握、三観点や卒業後につなげる視点、授業構成などを、評価・分析し、授業改善を図る。			
			・自立活動の具体的な取組とキャリア教育の実践を両軸として教育課程や授業改善を進める。	・10回以上の授業研を実施する。うち3回は外部講師を招き、授業力向上を図る。				A	・自立活動に焦点を当てた職員全員の研究を9回実施し授業研修等活発な協議が行えた。また外部講師が配信するビデオを各自が鑑賞して研修を行い、授業力向上に繋げた。	・若手教員の育成を中心に全体の授業力を高めるため、研修の充実を図る。自立活動の具体的な取組とキャリア教育の実践を両軸として教育課程や授業改善を進める。
			・基礎研修プログラムより、互いの協議及び外部講師による指導から授業づくりに資する。	・若手教員の育成を中心に授業力を高めるため、研修の充実を図る。				A	・若手教員の人材育成を推進する年間10回の研修内容は、実践的であり、学ぶ環境を整え、本校の学校力を高める取組にもなっている。	
2	児童生徒の健康の増進及び学校安全の徹底を図る。	健康教育や医療的ケア等に関する取組を整え、各種マニュアルの見直しを進めている。感染症対策や防災教	・感染症対策の徹底や、児童生徒の心身の健康や安全への意識を高く持つことを組織的に進める。	・各種委員会の定期的な開催及び外部機関との連携による取組の検証を行う。	B	・県と連携して報連相の徹底を行い、感染症対策をとった。保護者への発信も随時行い、初期対応により感染拡大防止に努めた。	・感染症対策の徹底や、児童生徒の心身の健康や安全への意識・配慮を継続する。 ・ヒヤリハット事例は、傾向を分析し、日常的に			

学校関係者評価（2月10日実施）

- ・6月の第1回学校運営協議会において、学校経営計画書として、具体的な取組や評価の指標を提示し、本校の重点目標達成に向けた提案を行った。
- ・9月の第2回学校運営協議会では、「キャリア教育全体計画」を見ながら意見をいただき、高等部作業班の課題設定についても多くの示唆をいただいた。
- ・12月の第3回学校運営協議会では、高等部作業班の活動を見学していただき、今年度のチャレンジに多くの意見をいただいた。可視化された支援や生徒たち同士で商品開発のアイデア出し合っている姿に高評価をいただいた。作業スペースの確保や工具の管理は課題を指摘された。
- ・本校の取組を知った県外の学校から視察に来てもらったことは成果の一つだが、センター的機能として高等学校からの要請が無いことを真摯に受けとめ、本校から積極的に高等学校へ足を運びながら連携を進める必要がある。

2月の学校運営協議会では、校長より学校経営評価書を示し、今年度の達成状況を報告した。キャリア教育の研修が全体のものになっていない点、防災の備えと研修の充実を図っていく点、人権意識を高め、風通しの良い職場にしていく点など来年度に活かすべき改善点について助言を得た。

		育等、職員の危機管理意識の向上及び外部機関との連携を図りながら取組を推進する。 【B】	・ヒヤリハット報告等から、日常的な人権意識や危機管理意識を高める。	・ヒヤリハット報告を分析し、意識向上、事故防止に繋がられたか検証する。	C	・報告は迅速に行われているものの、昼休みの休憩時間にけがが多く確認されている。 ・次年度は子どもの人権に対する意識を向上させる具体的な職員研修を開催したい。	共有していくことを職員の中に定着させることが必要であるので、分析結果を活用していく。 ・防災の取組では、2次避難も視野に入れ、安全管理や物資の確保等、地域や関係機関と連携しながら進める。	・1月に育成会(PTA)役員にも学校評価を実施し、46名(90%)から回答を得た。他の学校にない特色が見えにくい点やコロナ禍の状況はあるが地域活動の展開が弱い点について指摘をいただいている。今後、地域での活動を推進し、広報活動においても積極的に可視化を図っていきたい。 ・2月末には、学校運営協議会委員にも学校評価を実施し回答を求めた。高等部の作業学習の改善が積み上がってきていること、協議会が活発な協議が行われていることの評価を得た。一方、地域交流やセンター的役割を展開していくことへの希望を求められた。
3	キャリア教育の推進と職業教育の充実を図る。	学部別に児童生徒の実態に応じたキャリア教育の推進に取り組んできている。昨年度見直したキャリア教育の全体計画を活用しながら、さらなるキャリア教育の意識向上を図る。 【C】	・キャリア教育の全体計画を活用した取組を進め、卒業後の生活に見通しを持てるようにする。	・キャリア教育の全体計画を活用した取組を推進し、全教員への浸透を図る。	B	・キャリア教育の全体計画をホームページに掲載することで、学校外にも発信して全教員への意識の向上を図った。	・キャリア教育の全体計画に基づいた取組を一層進め、卒業後の生活に見通しを持てるようにする。 ・研修や協議を通して各学部でのキャリア教育の取組を充実させ、教職員や保護者と共有する。	
			・学びの連続性を踏まえ学部別にキャリア教育への共通認識を持てるようにする。	・授業実践について、学部間で交流し協議する場を設定する。	C	・日々の授業の中にあるキャリア教育の実践について、職員全体で協議する機会を一度しか持てなかったため、次年度は中心になる係を作って、更なる意識向上に努めたい。		
			・職員や保護者への研修の機会を通して、キャリア教育、職業教育の啓発を進める。	・職員研修、保護者研修ともに、年間1回以上実施する。	C	・保護者向けの研修を1回設定し、福祉制度に関する学習会を行った。キャリア教育については職員の自主的な学習会において3回研修を行ったので、今後、全体で取り上げていく必要がある。		
4	センター的機能を発揮することで開かれた学校づくりを推進する。	コミュニティスクールの取組や地域とのつながりを校舎改築の議論と重ね、「新しい紀北支援学校」に向けての取組を進めている。社会との連携・協働をもとに、センター的機能を発揮することで、「開	・外部の方による授業協力要請、外部の方との取組についての協議を行い、推進を図る。	・高等部の作業学習を中心に、製品のほんものづくりを推進し、販売活動や広報活動を拡充する。	A	・地域で活躍されているゲストティーチャーを招き、作業製品の質の確認と技術向上を図った。更に新規販売ルートを開拓したが、生産が追いつかない課題が生じた。	・地域との連携を進め、児童生徒の主体的な活動や体験的な活動を拡げる。 ・センター的機能の取組では、相談支援にとどまらず、高等学校との交流を深め、共同学習の方法を探る。 ・実施設計に備えた準備を行い、県教育委員会と連携し、具体的な所室の	
			・地域のニーズを把握しつつ、地域向けに校内外での研修会や教育相談の機会を拡大する。	・研修会を年間3回以上行くとともに、中学・高校のニーズに合わせて、支援を必要とする生徒の担当教師等	B	・本校校区の小中高等学校の教師とオンラインで繋いで外部講師の講演や本校の実践発表を行い、センター的役割を果たした。		

		<p>かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>【C】</p>		<p>に対する教育相談の件数を増やす。</p>			<p>配置や所室内の設備等について協議を進める。</p>	
		<p>・実施設計に備えた準備を行い、県教育委員会と連携し、具体的な教室の配置や作業棟の設備等について協議を進める。</p>		<p>・県教育委員会と十分な議論を行い、具体的な教室の配置や作業棟の設備等について協議を行う。</p>	C	<p>・県教育委員会と連携し、取り組みを進めているところである。</p>		